

関西大学人間活動理論研究センター (Center for Human Activity Theory: 略称 CHAT)

第3回国際シンポジウム 「新しい学びの挑戦」を開催

日時: 12月2日(土)午前10時～午後5時 場所: 関西大学 千里山キャンパス 以文館 2階

関西大学人間活動理論研究センター (CHAT) では、12月2日(土)午前10時から、第3回国際シンポジウム「新しい学びの挑戦」を千里山キャンパス以文館2階カンファレンスルームで開催いたします。

今回の国際シンポジウムでは、「学びとしての学校改革 - 日本・フィンランド・アメリカの国際比較を通して - 」をテーマに、日本、フィンランド、アメリカにおける学校改革プロジェクトを取り上げ、学校をよりよく変化させようとする新たな試みについて国際的に比較します。そして、学校の改革はそれに参加する教師、子ども、学校のリーダーやスタッフ、親や市民が協働する「新しい学びの挑戦」であり、そうした学びのプロセスの中で、人々がいかに学校改革の担い手となるかについて考えていきます。

当日は、フィンランド・ヘルシンキ大学から Anna Paulina Rainio (アナ・パウリーナ・ライニオ) 氏と、Terttu Tuomi-Grohn (テルトゥ・ツオミ・グルーン) 氏を講師に迎え、それぞれ「学校における物語的な学習アプローチの開発 - 生徒の『行為の主体性』という挑戦」、 「学校と職場の間での学習と転移の促進」をテーマに講演を行います。

さらに、アメリカ・カリフォルニア大学の Hugh Mehan (ヒュー・メーハン) 氏から、「組織間の協働 - 少数者の生徒のための多様性の向上と大学進学戦略」をテーマに講演をしていただきます。

なお、講演はすべて英語で行われますが、当日、講演原稿の日本語訳をお配りします。(参加費: 無料、一般参加: 可)

また、当日のシンポジウムの様子を取材していただくことができますので、ご検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 鶴丸、北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL: 06-6368-0075 FAX: 06-6368-1266

<http://www.kansai-u.ac.jp>

第3回CHAT国際シンポジウム「新しい学びの挑戦」

日 時 : 2006年12月2日(土) 午前10時~午後5時
場 所 : 関西大学千里山キャンパス 以文館2階 カンファレンスルーム
主 催 : 関西大学人間活動理論研究センター (CHAT)
参 加 費 : 無 料
事 前 申 込 : 要(一般参加をご希望の場合は、お名前・ご所属・ご連絡先をE-mailで info@chat.kansai-u.ac.jpまで、またはFAXで06-6368-0096までご連絡ください。)

プログラム :

- 10:00 - 10:10 Opening
- 10:10 - 10:50 <講演1> 山住 勝広(関西大学人間活動理論研究センター - 長、文学部教授)
「学校における『行為の主体性』の新しいかたち - 学校を変える学びへ
New forms of agency in school: Toward changing school learning
- 10:50 - 11:30 <講演2> 比留間 太白(関西大学人間活動理論研究センター - 研究員、文学部教授)
「協働思考プログラムを通じた教室と学校での協働の形成」
Making collaboration in classroom and school through “Thinking Together Programme”
- 11:30 - 12:10 <講演3> Anna Pauliina Rainio (Doctoral Candidate, Assistant, Department of Education, University of Helsinki, Finland)
「学校における物語的な学習アプローチの開発 - 生徒の『行為の主体性』という挑戦」
Developing narrative learning approaches in school: The challenge of pupil agency
- 13:10 - 14:30 <講演4> Terttu Tuomi-Gröhn (Professor, Department of Home Economics and Craft Science, University of Helsinki, Finland)
「学校と職場の間での学習と転移の促進」
Promoting learning and transfer between school and workplace
- 14:40 - 16:00 <講演5> Hugh Mehan (Professor of Sociology and Director of the Center for Research on Educational Equity, Assessment, and Teaching Excellence, University of California, San Diego, United States)
「組織間の協働 - 少数者の生徒のための多様性の向上と大学進学戦略」
Inter-organizational Collaboration: A Strategy to Improve Diversity and College Access for Underrepresented Minority Students
- 16:10 - 17:00 Discussion

関西大学人間活動理論研究センター(CHAT)について

関西大学人間活動理論研究センター(CHAT)は、“学校改革の担い手としての大学”を目指し、人間の発達と、人間活動や文化の新たな創造につながる革新的な学習方法と教育システムの開発に取り組んでいます。

学校教育、コミュニティ教育、コミュニケーション教育、それぞれの教育システムについて実践的な研究活動を行うことで人間活動を新たにデザインしていく理論を導き出し、その理論から革新的な学習方法と教育システムを開発していきます。

大きな特徴は、「協働」と「越境」をキーワードとしていることです。学校、仕事や組織、専門性、科学や芸術、地域やコミュニティ、異世代、国際理解など、様々な方面からの「協働」と「越境」による学習・教育を支援する実践的な研究を行い、社会変化の担い手としての学校の再生、学校内外での学習方法の構造転換、教育を「協働」と「越境」で支援する学習ネットワークづくり、教師や専門職の人材開発など、新たな教育システムの提言につなげていきたいと考えています。

(参考) イベント開催状況

CHATフォーラム開催状況

| | | |
|-------------|-----|--|
| 2005年8月5日 | 第1回 | 「教職専門職大学院のカリキュラムを構想する」 |
| 2005年11月23日 | 第2回 | 「アン・エドワーズ教授講演会」 |
| 2006年3月25日 | 第3回 | 「未来の小学校教育を考える」 |
| 2006年9月15日 | 第4回 | 「授業研究から学校改革へ」 |
| 2006年10月7日 | 第5回 | 「これからの言語教育 新たな可能性」 |
| 2006年10月21日 | 第6回 | 「小・中一貫教育の時代 学校の再生へ」 |
| 2006年11月11日 | 第7回 | 「人間活動の新たなデザインとコミュニティの再生 社会的な学びと参加を通して」 |

国際シンポジウム「新しい学びの挑戦」開催状況

| | | |
|-----------------|-----|--------------------------------------|
| 2004年9月10日・11日 | 第1回 | 「産業主義時代の学校と仕事を超えて」 |
| 2005年11月18日・19日 | 第2回 | 「境界越境のための協働にむけて」 |
| 2006年12月2日 | 第3回 | 「学びとしての学校改革 日本・フィンランド・アメリカの国際比較を通して」 |

関西大学人間活動理論研究センターについて

～ 学校改革の担い手としての大学 ～

関西大学人間活動理論研究センター（Center for Human Activity Theory：略称 CHAT）は、2005年4月、教育の研究・開発、人間活動の発達へ、革新的な学習の実践からアプローチする国際的な研究教育拠点として、関西大学に設立されました。

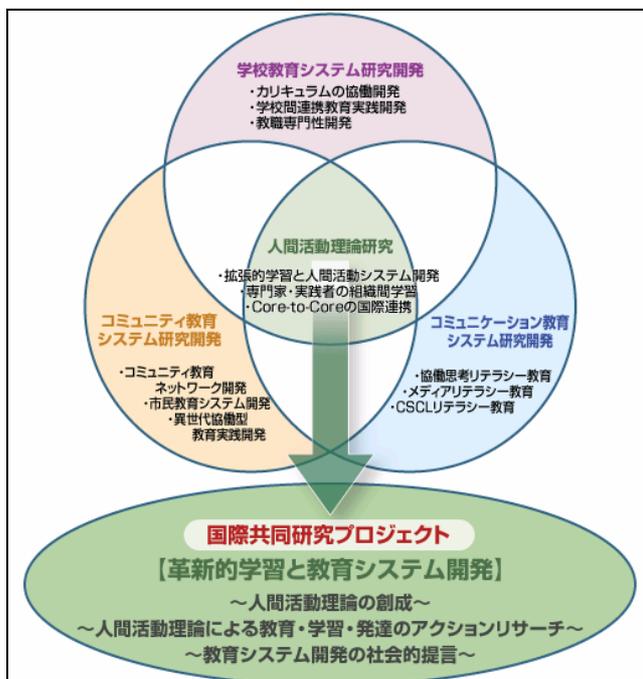
海外や国内の大学・研究機関、研究者と緊密かつ組織的な協力関係を結んで取り組む共同研究プロジェクト「革新的学習と教育システム開発の国際共同研究 - 人間活動理論の創成 - 」は、2005年から09年までの文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」に選定されました。

このプロジェクトは、“学校改革の担い手としての大学”をコンセプトにしており、小中学校の学校づくりへの助言をはじめ、教師や実践者の学習と専門性の新たな開発、地域とコミュニティを巻き込んだ教育ネットワークの推進、グローバル時代における言語・科学・芸術やコミュニケーション教育のあり方、学校改革につながるカリキュラム・授業・学習のあり方など、独自の教育改革理論の構築を図っていきたいと考えています。

共同研究プロジェクトの目的

プロジェクトは、人間活動理論の創成に向けた「学校教育システム研究開発」「コミュニティ教育システム研究開発」「コミュニケーション教育システム研究開発」を行い、人間活動の新たな形態をデザインし創造していくことが目的となっています。

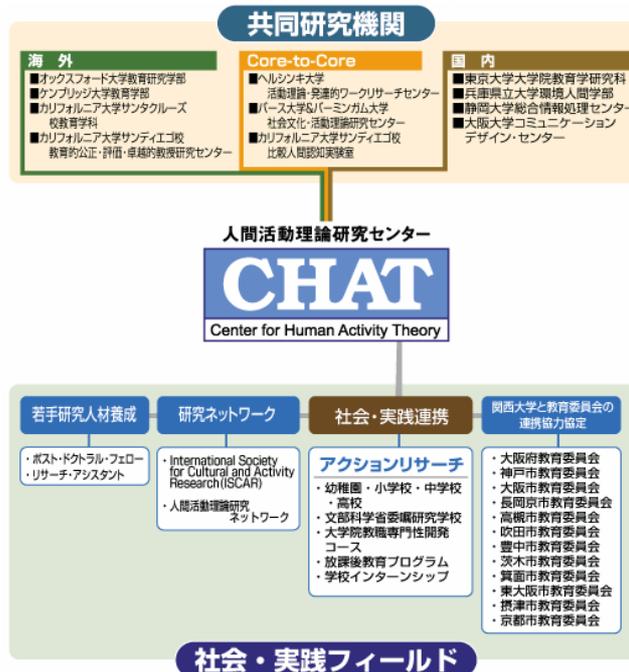
< CHAT 共同研究プロジェクトの概念図 >



共同研究プロジェクトの体制

人間の教育・学習・発達における世界的なリーディング・センターのヘルシンキ大学(フィンランド)、パース大学・バーミンガム大学(イギリス)、カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)をはじめ、国内外の大学や研究機関、研究者と緊密かつ組織的な協力関係を結び、自治体の教育委員会や地元の学校との連携により、プロジェクトを推進しています。

< CHAT 共同研究体制の概念図 >



国際シンポジウム「新しい学びの挑戦」の開催

第1回国際シンポジウム(開催日:2004年9月10日、11日)

テーマ「産業主義時代の学校と仕事を超えて」

国内外で活躍する第一線の研究者を招聘し、21世紀の新しい社会システムのデザインにおける教育と学び、学校と仕事の変革と越境について展望。

第2回国際シンポジウム(開催日:2005年11月18日、19日)

テーマ「境界越境のための協働にむけて」

英国、フィンランド、中国より第一線の研究者を招聘して、国、文化、学校、家庭、地域、学問領域、理論と実践といった、様々な境界を越境していく協働について展望。子ども、教師、教育実践者、研究者の革新的学習を可能とする新たなオブジェクトの創出に挑んでいく。

第3回国際シンポジウム(開催日:2006年12月2日を予定)

テーマ「学びとしての学校改革 日本・フィンランド・アメリカの国際比較を通して」

日本、フィンランド、アメリカにおける学校改革の挑戦を国際的に比較し、学校改革の中心に、子どもと若者、教師、親や地域、市民、学校や教育委員会のリーダー、地方自治体や政府のリーダーらの重なり合う学びのプロセスがあることを考えようとするもの。

研究活動

<グループ1.>

社会変化の担い手としての学校 - 学校と学校外のアクター間での生産的協働のモデル -

関西大学人間活動理論研究センター(CHAT)とヘルシンキ大学活動理論・発達のワークリサーチセンター、バース大学&バーミンガム大学社会文化・活動理論研究センターとの国際共同研究プロジェクト。

学校がその外部にあるコミュニティや多様な組織とのあいだで創造的に協働していく新しい教育実践を研究することが目的。「クロス・スクール・ワーキング」=学校を横断する新たな教育実践の中で、創造的なカリキュラム・授業・学習活動、子ども・若者の包摂的なケアを生み出そうというものである。

コミュニティの活性化、文化の創造、経済の革新、市民性の向上など、学校が社会を協働的に変化させ新たに形成していく「担い手」として、日本・フィンランド・イギリスの実践事例の比較研究も含め、その成功事例の明確化と分析を行う。

分析を通し、学校が社会変化の担い手となっていく実践活動の新しい形態に関するタイポロジー、そしてそうした学校の形態について、それを意味づけ発達させていく概念的フレームワークを生み出していく。

関西大学とヘルシンキ大学とバース大学・バーミンガム大学は、人間活動のデザインと発達に関する「文化・歴史的活動理論」(cultural-historical activity theory)を理論的フレームワークとして共有しており、三つのセンターは、その応用と発展の世界的なリーディング・センターと位置づけられる。

<グループ2.> 協働思考を通じた学習

ポスト産業主義時代におけるグローバル化・知識社会化・多文化社会化への変化に対応する革新的学習と教育システム開発を推進。

確定的な文化の再生産に偏重した学校学習の構造を転換し、問題発見、探究・調査、知識・技能の構造的理解と実践的応用、新しい文化の創造を対象とした学習活動を新たにデザインすることを目指している。

協働性、協働思考の習得と実践によって、教室、学校、教育活動に創造的協働を生み出し、また、児童・生徒、教師、そして研究者の学習過程を談話を主なデータとして分析し、活動理論と談話理論を接合した人間活動理論の新たな拡張が目的となる。

<グループ3.> コミュニティ教育の展開のためのネットワークの創造と人材開発

現在の時代変化の中で、未来へ向けた社会変革のための重要なポイントとして、コミュニティの再生、コミュニティの創造という課題がある。グローバル化が進む国際社会の中で、様々な地域で共通の問題となりつつあり、各地域に多様で独自の課題も生まれている。

共通しているのは、それぞれのコミュニティを創造する基底となるべき力の構築、そのための社会の様々なセクションが有機的に結びついた新たな学びや活動の場の創成が重要なポイントとなる。

このポイントを踏まえ、コミュニティ教育を展開するネットワークの創造、ネットワークを創造するリーダーなどの人材開発を研究テーマとして、下記のプロジェクトを行う。

大阪府教育委員会が府下の各中学校区で進めている「地域教育協議会」(すこやかネット)の活動、豊中市などが文部科学省の委託によって実施している「地域子ども教室」などをフィールドとして、コミュニティでの教育活動を進めていくための人材開発とそのためのカリキュラムのデザイン、コミュニティ内あるいは学校と家庭、コミュニティ間のネットワークの構築について研究していく。

ジョーンズ・ホプキンス大学(アメリカ、メリーランド州)の Center on School, Family, and Community Partnerships が主催する National Network of Partnership Schools と学校、家庭、コミュニティの連携のための教育プログラムやネットワーク開発のための研究交流や他の海外の諸機関などと、コミュニティ創造のための研究交流を行う。

関西大学が 2003 年度から実施している学校インターンシップ・プログラムに即して、参加する学校、家庭やコミュニティおよび大学との連携を学校改革のプロジェクトに位置づけ、小・中・高校と大学との新たな教育の場とそれを可能とするネットワークの創造を追及する。

ニュースクール

関西大学人間活動理論研究センター(CHAT)では、4月から12月の9カ月間にわたり、吹田市立山手小学校の4年生から6年生の児童15人が参加する放課後教育活動・ニュースクール『「食」を楽しもう 食楽(しょくがく)プロジェクト』を開校。

千里山キャンパスの以文館2階人間活動理論研究センターを会場に、学校の授業が終わった放課後の毎週水曜日午後2時から午後4時(学校行事、夏休み、祝日を除く)と、期間中の5回程度の土曜日に実施。



ニュースクールは、平成17年度の文部科学省学術フロンティア推進事業に選定された人間活動理論研究センターの研究活動のひとつである<グループ1. 社会変化の担い手としての学校 - 学校と学校外のアクター間での生産的協働のモデル - >として実施するもの。



「食」をテーマに身近な料理について、栄養の基礎や魚市場見学、農業体験、各国の食文化の調査、パソコンを使った作品づくりと発表、メールやウェブを活用した学校、家庭、専門家・生産者とのネットワークづくり、海外（客員教授）との交流まで、大学生とともに実践していく。

ニュースクールは、放課後教育活動として、学校外の家庭、専門家・生産者、社会団体といった多様な仕事や組織、コミュニティの横断的な協働によって子どもの学習に積極的に介入し、旧来の枠を超えて幅広く子どもの成長を支援していく新しい教育システムと学校の活動形態を開発することが目的。



子どもたちが自発性や創造性、社会性を育めるように「暗記の学校」を「活動の学校」へとつくりかえていくモデルとなることを目指している。

神戸スローフード協会の協力により栄養士や栄養学の専門家、生産者などと協働しながら、学習を支援していく。

<今回実施するニュースクールでの学習方針>

| |
|---|
| 食の楽しみを見直すこと 食のために、自分でできることを知ること コンピュータを有効活用した作品づくりと発表、ネットワークづくり 海外との交流 生産者への訪問と体験学習 栽培、栄養の基礎知識について学習すること |
|---|

学習内容は、カレーやイタリアンなどの身近な料理について、栄養や食材の農業体験を通して、実際の料理づくりを实践。また、センターの海外客員教授の来日時に発表会を実施。

こうした学習方針と学習内容により、子どもの潜在的な自発性や創造性、社会性を育むための新しい教育システムのあり方を研究していく。



<ニュースクールの特徴と意義>

放課後教育活動の実践を通し、大学、小学校、学校外の専門家、社会団体、家庭、地域の間での生産的協働実践をモデル化し、現実の生活活動と発展的にネットワークしていく子どもの学習を概念化。

放課後教育活動の開発は、大学、小学校、学校外の専門家集団、社会団体、家庭、地域の間での「境界領域の活動」を通じた教育実践の新たな形態の創造ということができる。「知識の循環的生産」を担う「ネットワーク組織」という意味において、学校の新しい形態を見出すことができると考えている。



山住勝広・人間活動理論研究センター長(文学部教授) プロフィール

1963年神戸市生まれ。神戸大学大学院文化科学研究科博士課程修了。博士(学術)(神戸大学)。大阪教育大学教育学部講師、助教授を経て、2004年4月、関西大学文学部教育学専修教授。2007年4月、同学部初等教育学専修教授(予定)。2005年4月から文部科学省学術フロンティア推進事業として関西大学人間活動理論研究センター(CHAT)センター長を務める。

今日、学習と人間発達研究の領域で最もインパクトの大きい潮流である「活動理論による教育研究」において世界的な研究者である。著書に、『学びのポリフォニー』、『教科学習の社会文化的構成』、『Learning in Classrooms』、『活動理論と教育実践の創造』、『New Learning Challenges』ほか。